疾病論４　内分泌　谷口先生　R7.9.22実施分＋問6予想問題　６０点満点

【1】Basedow病について、その症状、診断、治療について答えなさい。（各5点　計15点）

(1) 症状

甲状腺のびまん性腫脹、眼球突出、頻脈　→　Ｍｅｒｓｅｂｕｒｇ３徴（メルセブルグ）
心房細動、動悸、息切れ、発汗、手指振戦、全身倦怠感、
体重減少、食欲亢進、排便回数の増加、筋力低下

(2) 診断

確定診断は、上記の症状から１つと、下記
①遊離T4の上昇
②TSH低下
③TSH受容体もしくはTSAｂが陽性
④１２３Ｉもしくは９９ｍＴｃシンチグラムでびまん性の取り込みが多い。

(3) 治療

・抗甲状腺薬であるチアマゾール、プロピルチオウラシルの投与。
※ただし、０．４％に無顆粒球症が発症した場合は直ちに投薬を中止する。
発症の兆候は感染症による発熱、咽頭の痛み。

・頻脈に対してβ遮断薬の投与

・薬物が使えない、効果がない、早く寛解させたい場合は甲状腺の全摘出もしくは亜摘出

・放射線物質の１３１Ｉを経口投与し甲状腺に集積することで組織を破壊するアイソトープ治療

【2】ホルモンのフィードバック機構について、正しいものはどれか、2つ選べ。（各2点）
① 末梢のホルモンが過剰な時は、ネガティブフィードバックがかかる。　○
② 末梢のホルモンが不足した時は、ポジティブフィードバックがかかる。　○
③ 末梢のホルモンが過剰な時は、ポジティブフィードバックがかかる。
④ 末梢のホルモンが不足した時は、ネガティブフィードバックがかかる。
⑤ 末梢のホルモンが正常な時は、ポジティブフィードバックがかかる。

【3】甲状腺腫瘍について、誤っているものはどれか、1つ選べ。（2点）
① 触診で発見されることがある。
② 腫瘍の鑑別には、超音波検査が有用である。
③ 悪性が疑われる場合は、甲状腺穿刺吸引細胞診を行う。
④ 甲状腺がんでは、腫瘍マーカー（CEA）が上昇することがある。
⑤ 一般的に、甲状腺がんは予後が非常に悪い。　×

【4】慢性甲状腺炎について、〇×で答えなさい。（各1点）

（ × ）米国人のOideyasu Oda博士が世界で初めて報告した。

（ ◯ ）甲状腺機能が亢進することがある。

（ ◯ ）甲状腺機能が低下することがある。

（ ◯ ）甲状腺機能低下時は、甲状腺ホルモン製剤（チラージンS®）を内服する。

【5】甲状腺の救急治療について、誤っているものはどれか、1つ選べ。（2点）

① 甲状腺クリーゼは、バセドウ病が原因であることが多い。

② 甲状腺クリーゼは、甲状腺の中毒症状を起こす。

③ 甲状腺クリーゼは、致死率が10%以上と高い。

④ 粘液水腫は、甲状腺ホルモンの極端な不足で起こる。

⑤ 粘液水腫は、バセドウ病が原因であることが多い。　×

【6】副甲状腺機能亢進症について、誤っているものはどれか、2つ選べ。（各2点）（予想）

① 血液検査ではPTHの低下がみられる。　×　上昇

② 甲状腺機能亢進症の内服薬には、ビスホスホネートやレグパラがある。　◯

③ 血中のリン濃度を減らし、骨を分解させ高Ca血症になる。　◯

④ 全ての人に必ず高カルシウム血症の症状が出る。　×　無症状のこともある

⑤ 胃潰瘍や膵炎が見られる。　◯

【7】視床下部と下垂体ホルモンの対応について、〇×で答えなさい。（各1点）

（ ◯ ）成長ホルモン放出ホルモン(GH･RH) ― 成長ホルモン(GH)

（ ◯ ）甲状腺刺激ホルモン放出ホルモン(TRH) ― 甲状腺刺激ホルモン(TSH)

（ ◯ ）甲状腺刺激ホルモン放出ホルモン(TRH) ― プロラクチン(PRL)

（ ◯ ）副腎皮質刺激ホルモン放出ホルモン(CRH) ― 副腎皮質刺激ホルモン(ACTH)

（ ◯ ）性腺刺激ホルモン放出ホルモン(GnRH) ― 黄体形成ホルモン(LH)

【8】下垂体腺腫について、誤っているものはどれか、1つ選べ。（2点）

① 悪性腫瘍が多い。　×

② 頭痛がきっかけで発見されることがある。

③ 視野障害がきっかけで発見されることがある。

④ 経蝶形骨洞下垂体腫瘍摘出術（Hardy手術）が治療法の1つである。

⑤ ガンマナイフ（定位放射線照射）が治療法の1つである。

【9】成長ホルモン(GH)産生腫瘍について、誤っているものはどれか、2つ選べ。（各2点）

① 子どもの頃に発病すると、巨人症を呈することが多い。　×

② 大人になって発病すると、巨人症を呈することが多い。

③ 糖尿病を合併しやすい。　※コルチゾル過剰によりインスリン抵抗性が上がるため。

④ 鼻・口唇の肥大や、下顎突出が特徴である。

⑤ 治療のために、成長ホルモンの注射を行う。　×

【10】尿崩症・SIADHについて、誤っているものはどれか、2つ選べ。（各2点）

① 尿崩症は、ADH（抗利尿ホルモン）の過剰で起こる。　× ※中枢性はバソプレシン分泌障害、

② 尿崩症は、多尿・低張尿・口渇を呈する。　腎性はバソプレシンに対する反応性低下による。

③ SIADHは、ADH（抗利尿ホルモン）の不足で起こる。※バソプレシン分泌過剰症のこと。

④ SIADHは、体液が薄まって高Na血症を呈する。　× 低

⑤ SIADHは、デスモプレシン酢酸塩（ADH誘導体）の点鼻または内服薬で治療する。

【11】クッシング症候群について、誤っているものはどれか、1つ選べ。（2点）

① コルチゾルが過剰に分泌され、多彩な症状を引き起こす。

② ステロイド薬の投与が原因になることがある。

③ 満月様顔貌や、中心性肥満を呈する。

④ 診断のために、デキサメゾン抑制試験を行う。

⑤ 治療のために、ステロイドを投与する。　×

【12】原発性アルドステロン症について、〇×で答えなさい。（各1点）

（×）コルチゾルが過剰産生される。

（〇）高血圧が起こる。

（〇）低カリウム血症が起こる。

（〇）手術を希望しない場合は、抗アルドステロン薬を使用する。

【13】アジソン病について、正しいものはどれか、2つ選べ。（各2点）

① 副腎皮質の機能が低下する。〇

② コルチゾルのみ不足する。

③ アルドステロンのみ不足する。

④ ACTH増加により、皮膚に色素沈着が起こりやすい。〇

⑤ 英国の内科医Chance Ohshiro博士が発見、第一選択は外科治療である。

【14】褐色細胞腫について、正しいものはどれか、2つ選べ。（2点）

① カテコールアミンを産生する腫瘍である。

② 頭痛、動悸、顔面蒼白などの症状を呈する。

③ 血・尿中のノルアドレナリン・アドレナリン・VMAの測定は、診断に有用である。

④ 低血圧になる事が多い。　×

⑤ 慢性化すると、先端巨大症・巨人症を呈する。　×